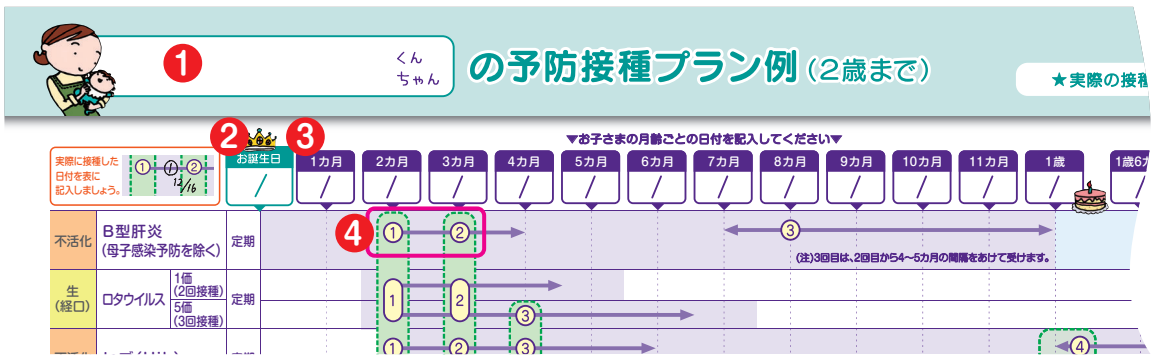
予防接種スケジュール表（2歳未満）

**予防接種プラン例を参考に、
お子さまに合うスケジュールを立てる際に
お役立てください。**

ご使用方法

一枚ずつ切り離して、保護者の方にお渡しください。

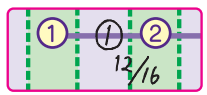


❶ お子さまの名前を記入。

❷ お子さまの誕生日を記入。

❸ お子さまの月齢ごとの日付を記入。

❹ 接種予定日や実際に接種した日付を表に記入し、ご活用ください。



MSD製薬
INVENTING FOR LIFE

2024年4月版
※制度の変更等により、スケジュールや内容に変更が生じる場合があります。
（2024年4月作成）

くん
ちゃん

の予防接種プラン例（2歳まで）

監修：NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会

★実際の接種スケジュールは、医師と相談の上、早めに組みましょう。

実際に接種した日付を表に記入しましょう。

▼お子さまの月齢ごとの日付を記入してください▼

			お誕生日	1カ月	2カ月	3カ月	4カ月	5カ月	6カ月	7カ月	8カ月	9カ月	10カ月	11カ月	1歳	1歳6カ月	2歳	備考
不活化	B型肝炎（母子感染予防を除く）	定期	/	/	①→	②	→			③	←→							0歳のうちに3回接種が必要。 1歳以上でも未接種の場合は、できるだけ早く受けることをおすすめします（1歳以上は任意接種）。 （注）3回目は、2回目から4～5カ月の間隔をあけて受けます。
生（経口）	ロタウイルス 1価（2回接種）	定期			①	②	→											初回接種は生後6週から、遅くとも生後14週6日までの接種開始が推奨されています。
	ロタウイルス 5価（3回接種）	定期			①	②	③	→										
不活化	五種混合（DPT-IPV-Hib）	定期			①	②	③	→							④	→		小学校入学前に三種混合（DPT）を1回接種（任意接種）。 11歳で二種混合（DT）を追加接種（定期接種対象11～12歳）。
不活化	小児用肺炎球菌	定期			①	②	③	→							④	→		15価のワクチンと13価のワクチンの2種類がありますが、使用するワクチンは、15価のワクチンを基本とします。
生	BCG	定期						①	→									
生	MR（麻しん風しん混合）	定期													①			基本的には1歳になったらすぐに。 小学校入学の前年に追加接種。
生	水痘（みずぼうそう）	定期													①	②	→	基本的には1歳になったらすぐに。
生	おたふくかぜ	任意													①	→		1歳を過ぎたら早期に接種。 確実な免疫をつけるために2回受けることが推奨されています。（※）
不活化	日本脳炎	定期																標準的には3歳から接種しますが、生後6カ月から受けられます。
不活化	インフルエンザ	任意																毎年、10月から11月ごろに接種しましょう。
mRNA	新型コロナ	任意																接種年齢やワクチンの種類によって接種スケジュールが異なります。事前に最新情報を確認しましょう。
	渡航ワクチン																	海外渡航の際には、黄熱、A型肝炎、狂犬病などワクチン接種が必要な場合があります。 渡航が決まったら、なるべく早くトラベルクリニック等で予防接種の相談をしましょう。

（※）電子添文に記載はないが、接種を推奨

生 生ワクチン
不活化 不活化ワクチン
mRNA mRNAワクチン

←○→ 推奨接種時期（数字は接種回数）　定期予防接種の対象年齢　任意接種として接種できる年齢

定期 定期接種：定められた期間内で受ける場合には、原則自己負担なし。　**任意** 任意接種：原則自己負担。自治体によっては公費助成がある場合もあります。

接種間隔：異なる種類の注射の生ワクチン同士が接種できるのは、4週間後の同じ曜日から。その他のワクチンの組み合わせについては、接種間隔に制限はありません。

同時接種：（1回の来院で）同時に複数のワクチンを接種することができます。詳しくはかかりつけ医に相談しましょう。

2024年4月版
VNV24PA0511

MSD製薬 INVENTING FOR LIFE

ワクチンで予防する子どもの病気

ワクチンで防げる病気があります。接種時期をみて、早めに接種スケジュールを組みましょう。

監修：NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会

MSD製薬 INVENTING FOR LIFE

★予防接種を 受ける前に★

- 受ける予防接種について、わからないことは医師に質問しましょう。
- 母子健康手帳は持ちましたか？
- 予診票の記入は済みましたか？ 手元にない場合は予約した医院へ確認を。
- 子どもの体調について、判断が難しいときには医師に相談を。

B型肝炎ワクチン

【B型肝炎】

B型肝炎ウイルスを持つ母親だけでなく、家族やお友達などからも感染します。肝炎になると、疲れやすくなり、黄疸が出ます。慢性化すると肝硬変や肝臓がんにつながります。

◎全3回：標準的には生後2カ月から接種。4週以上の間隔で2回。2回目から4～5カ月の間隔をあけて3回目。（母子感染予防を除く）

ロタウイルスワクチン

【ロタウイルス感染症（ロタウイルス胃腸炎）】

ロタウイルスは感染力が強いため、多くの乳幼児が感染します。激しい嘔吐や下痢、発熱を伴い、脱水症状やけいれんを起こしたり、脳症や脳炎等を合併することもあります。

◎全3回または全2回：32週までに3回接種を完了するものと、24週までに2回接種を完了するものの2種類があります。どちらのワクチンも初回は生後14週6日までに接種することが推奨され、接種間隔は4週以上です。

五種混合（DPT-IPV-Hib）ワクチン

【ジフテリア】

ジフテリア菌がのどについて、気道がふさがって息ができなくなったり、菌の毒素で神経麻痺や心臓の筋肉の炎症を合併して死亡することもあります。

【破傷風】

破傷風菌が傷口から入って、菌の毒素で全身の筋肉がけいれんし、最終的には後ろに大きく弓なりの姿勢になり、痛みと苦しさを伴います。呼吸ができず、死亡することもあります。

【百日せき】

百日せき菌がのどなどにつき、かぜのような症状で始まり、せきが長く続くようになります。けいれんや肺炎を起こしたり、1歳未満、とくに生後6カ月以下では無呼吸で死亡したり脳症を起こすこともあります。

※百日せきの感染予防の目的で小学校入学前に三種混合ワクチンを1回。（任意接種）
WHO（世界保健機関）も、この時期の接種を推奨しています。

【ポリオ（急性灰白髄炎）】

ポリオウイルスによる感染症です。感染しても、ほとんどの場合は、発病しないか、発病しても多くはかぜ症状ですが、まれに手足に麻痺を起こし、運動障害が残ります。

※海外では就学前にポリオワクチンを追加接種するのが一般的です。（任意接種）

【ヒブ（ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型）感染症】

鼻やのどにいるヒブが血液の中に入り、細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎や細菌性肺炎などを起こします。死亡や重い後遺症が残ることもあります。

◎全4回：生後2カ月から20～56日間隔で3回。3回目の後、6～18カ月の間で4回目。

小児用肺炎球菌ワクチン

【小児の肺炎球菌感染症】

鼻やのどにいる肺炎球菌が血液の中に入り、細菌性髄膜炎や細菌性肺炎などを起こし、死亡や重い後遺症が残ることもあります。重い中耳炎の原因にもなります。

◎生後2～6カ月に接種開始の場合、全4回：4週以上の間隔で3回。3回目から60日以上あけて生後12～15カ月に4回目。15価のワクチンと13価のワクチンの2種類がありますが、使用するワクチンは、15価のワクチンを基本とします。
なお、13価ワクチンで接種を開始した場合でも、途中から15価のワクチンに変更した場合は、最終回まで15価のワクチンを接種します。

※生後7カ月以降に接種開始の場合は、接種回数について医師にご相談を。

BCGワクチン

【結核】

結核菌が、主に肺について肺結核を起こします。子どもでは脳を包む髄膜につく結核性髄膜炎や重い肺の病気（粟粒結核）で重症になったり、死亡したりします。

◎1回：生後12カ月（1歳）未満。生後5～8カ月未満に接種することが推奨されます。

MR（麻しん風しん混合）ワクチン

【麻しん（はしか）】

熱、鼻水、せきなどの症状のあと、3～4日目から全身に発疹が出て、高熱が7～10日続きます。気管支炎、肺炎、脳炎等を合併しやすく、死亡することもあります。

【風しん】

体に赤い発疹が出ます。熱は出ないこともあります。
まれに脳炎や血小板減少性紫斑病という合併症が起こることがあります。
妊娠初期の女性がかかると出生児への障害の原因となります。

◎全2回：生後12カ月（1歳）になったら、すぐ1回。小学校入学の前年に2回目。

水痘（みずぼうそう）ワクチン

【水痘（みずぼうそう）】

水痘帯状疱疹ウイルスの感染により、熱が出て、かゆみのある虫さされのような赤い発疹が出て、水ぶくれになり全身に広がります。7日程度でかさぶたになります。脳炎や肺炎、皮膚の重い細菌感染症などがあり、死亡や入院することもあります。

◎全2回：1歳から接種。1回目から6カ月以上（最短3カ月）の間隔をあけて2回目。

おたふくかぜワクチン

【おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）】

耳下腺の腫れが目立ちますが、全身の炎症も起こします。無菌性髄膜炎、一生治らない難聴、脳炎の合併症があり、死亡や脳の後遺症が残ることもあります。

◎全2回：1歳から接種。小学校入学の前年に2回目を受けるとしっかりと免疫がつきます。

日本脳炎ワクチン

【日本脳炎】

感染した豚の血から、蚊を介して日本脳炎ウイルスに感染します。多くの場合は無症状ですが、脳炎を起こすと、死亡や後遺症が残ることが多くなります。

◎全4回：生後6カ月（通常は3歳）から、4週間隔で2回。1年後に3回目。9歳～12歳に追加1回。

インフルエンザワクチン

【インフルエンザ】

インフルエンザウイルスによる感染症で、主に冬に流行します。高熱を伴い、気管支炎、肺炎などの呼吸器の病気や、脳炎・脳症を起こし重症化しやすい病気です。

◎毎年1～2回：生後6カ月から接種可能。12歳以下は2～4週間隔で2回。10～11月を推奨。

新型コロナワクチン

【新型コロナウイルス感染症】

新型コロナウイルスによる感染症で、発熱やせき、倦怠感などのかぜに似た症状が現れます。ウイルスの株によっては重症化しやすく、合併症や死亡のリスクがあります。長期にわたる後遺症が現れることもあります。

◎接種年齢やワクチンの種類によって接種スケジュールが異なります。事前に最新情報を確認しましょう。

◎ワクチンの接種時期と接種回数（詳しくは医師にご相談ください）

- 定期接種：定められた期間内で受ける場合には、原則自己負担なし。
- 任意接種：原則自己負担。自治体によっては公費助成がある場合もあります。